

■井上房一郎 実業家。群馬交響楽団の創設はじめ、幅広く地域文化を先導し、巨大な足跡を残した。

いのうえふさいちろう

子規句歌革新1898＝ 群馬県高崎で、商店を営む井上保三郎の長男に生まれる。

ビアノ国産化・1900＝ 2歳：この年、高崎に市制が施行され、父が初代の市議会議員に選ばれ、

日露戦争始・1904＝ 6歳：母戸手を失い衝撃、トラウマとなる。

日露戦争終・1905＝ 7歳：

韓国反日暴動1907＝ 9歳：

以後、父が度々市議となつて、市の発展に尽力するとともに、主として軍の施設の工事を請け負いながら、  
“高崎の井上”“関東の井上”の地位を確立して行き、

明治天皇没・1912＝14歳：

大正時代には、高崎水力電気、高崎瓦斯に關係し、高崎板紙、上毛製粉、龍栄社製紙場はじめ、30以上の会社を設立して、高崎の工業化を推進するといったような環境に育ち、

民本主義・1916＝18歳：

高崎中学校を卒業し、父の勧めで、早稲田大学に進学するとともに、河合玉堂の塾に通う。玉堂が美術学校の教授をしていた關係で、その隣の音楽学校の学生と懇意になり、**初めてレコードに接して西洋音楽に感銘。早速、多数のレコードを買込み、**

ロシア革命・1917＝19歳：

完成したばかりの高崎公会堂でコンサートを聞き、飽き足らずに、音楽学校の学生グループを招いてのコンサートを何回も開く。そのことで同県人の萩原朔太郎とも親交を結ぶようになる。父の別荘が軽井沢にあったことから、前年に帰国した山本鼎と出会う親交するようになり、多大の影響を受ける。

本格政党内閣1918＝20歳：

この年日本自由画協会をつくつたのに山本鼎に共鳴して、高崎で自由画運動を起こすなど、文化活動に没頭して、大学は中退。さらに中学の同窓だった蟬山政道・住谷啓三郎と高崎新人会を結成して吉野作造・大山郁夫を招いて講演会を開催するなど、様々なことに足を突っ込んでいるうち、

原敬首相暗殺1921＝23歳：

関東大震災・1923＝25歳：

山本の斡旋で、画家を志して、いつ帰るとも告げずに、パリに留学。絵画や彫刻を学びながら、アルベルト・ジャコメッティ兄弟と親交を結び、ポール・セザンヌに傾倒。

治安維持法・1925＝27歳：

世界恐慌・1929＝31歳：

昭和恐慌に直面した父は、個人商店を井上工業株式会社に改組、新たな挑戦に乗り出す。この間、父からの手紙は一切読まず、送金だけを抜き取っていたという状況であったが、**\*セザンヌの発見によって、単なる画家でなく、文化全般の創造者になることを決意すると、**

海軍軍縮条約1930＝32歳：

満州事変・1931＝33歳：

**突如、シベリア鉄道経由で帰国し、井上工業の取締役に就任。**後に法務大臣を務める唐沢俊樹に見込まれ、その義妹春子と(有島生馬を仲人に)結婚。凱旋道路沿線の街並み造りに取り掛かるうち、

五一五事件・1932＝34歳：

父に勧められて商工省貿易局囑託となり、群馬県工業試験場関係で、地場産業の家具、木工、織物等を指導し始めると、群馬県輸出工芸会、高崎木工製作所配分組合、井上工芸、高崎毛織などを次々設立、東京銀座にはミラテスという工芸店を持つ。

帝人疑獄事件1934＝36歳：

この年、父が巨費を投じて日ごろ信仰する白衣観音の巨大な像の建立に着手。この年、まだ少年だった後の首相田中角栄が東京支社の住込み店員となった縁で最期まで支援し続ける。**ナチスを逃れて来日したタウトの身を預かることになり、自らの活動に共鳴したタウトに工芸品のデザインを委嘱したものの、**

二二六事件・1936＝38歳：

日中戦争始・1937＝39歳：

健保+総動員 1938＝40歳：

日米開戦・1941＝43歳：

近代の超克・1942＝44歳：

父が建立した大観音像が完成、地域のシンボルになる。梅雨で健康を害したタウトが離日し、**日中戦争が始まるなどして、工芸運動は終わる。**

父保三郎が死去、家督を継いで井上工業代表取締役社長に就任、

地域のトップ企業として大政翼賛会選挙への出馬を求められ、何とか回避、やむを得ず群馬県翼賛会壮年団長を引受けると、音楽慰問団を組織、

創価学会検挙1943＝45歳：

敗戦・1945＝47歳：

タウトの警告通り**\*敗戦となるや、県民を鼓舞すべく音楽に着目し、戦時中に活動していた音楽慰問団のメンバーを核に交響楽団を組織、指揮者には有島生馬の甥山本直忠を招く。噂を聞いて、一流音楽家たちも集まり始め、地域交響楽団の先駆となる高崎市民オーケストラ(群馬交響楽団)が誕生、その会長となる。**あわせて、小演劇を上演したり、画家・彫刻家を集めた塾をつくって、自ら教えるなどもしている。

新憲法施行・1947＝49歳：

極東裁判判決・1948＝50歳：

三大事件・1949＝51歳：

独立回復・1951＝53歳：

メデー事件・1952＝54歳：

**群馬交響楽団員による小学校や福祉施設を廻る「移動音楽教室」を始め、**より専門化をめざして、群馬フィルハーモニーオーケストラと改名、財団法人となり、その理事長に就任する。この間、タウトとの關係で戦前から親交のあったアントニン・レイモンドが再来日して事務所を開いていたことから、**完成した彼の「笋町の自邸」を訪れて再会、建物も気に入って図面の提供を受け、**高崎に、そっくりそのままの自邸を建設してしまう(結果として現存する貴重なレイモンド作品となる)。この間、母校高崎高校後輩のため、毎年春秋2回の文化講演会を開催、以後、情熱に共感した小泉信三、安部能成、矢内原忠雄、武者小路実篤、湯川秀樹、松下幸之助、井深大ら超一流の人物が講演してくれるほどで、高崎高校生にとっては、“校長の校長”という存在になって行く。

55年体制始・1955＝57歳：

**「移動音楽教室」の様子が、今井正監督による映画「ここに泉あり」になり、全国に知られる。高崎市の復興が進んだことから、群馬交響楽団を市に移管することを考え、そのために、本格的にオーケストラに対応する施設の建設を決意すると、気心の知れたレイモンドに設計を依頼するとともに、著名な指揮者近衛秀麿や中学からの親友住谷啓三郎高崎市長と図って、建設に向けた市民運動を興す。**

なべ底不況・1957＝59歳：

ようやく案が決定して着工、大規模で困難な建物ながら、工事は井上工業で行うこととし、この頃、一人息子隆太郎の急逝で衝撃を受けるも、孫が会社を継げるまで頑張ろうと決意、

安保闘争・1960＝62歳：

タイタイ病始・1961＝63歳：

TV宇宙中継始1963＝65歳：

東京オリンピック 1964＝66歳：

大学紛争始・1965＝67歳：

全共闘・1969＝71歳：

大阪万博・1970＝72歳：

**\*ついに地方都市最初の音楽ホール「群馬音楽センター」が完成、'時の高崎市民之を建つ'の記念碑も建つ。**群馬県知事褒償を受け、住谷高崎市長に譲って、理事長を退任。早くも、**戦前から蒐集してきたコレクションを公共のものにすべく、群馬県立美術館設立準備会を発足、**土方定一神奈川県立近代美術館長らの協力得て、会社に「群馬県ファウンデーションギャラリー」開設。高崎高校後輩への講演会を「哲学堂」と名付け、以後没するまで毎月一回市民向けに無料で行う。

角栄金脈辞任1974＝76歳：

グラブール事件1975＝77歳：

田中角栄逮捕1976＝78歳：

革新大敗北・1979＝81歳：

貿易摩擦問題1980＝82歳：

.....1984＝86歳：

ジャンボ機墜落1985＝87歳：

土方とともに群馬県知事を説得、県の明治百年事業の一つとして、高崎市郊外に美術館のある「群馬の森」を建設する構想となり、設計者に磯崎新を迎えて、**「県立近代美術館」が完成、コレクション全てを寄贈、**磯崎は日本建築学会賞受賞して飛躍して行く。「哲学堂」を続けるため、市民一人一人が拠出する財団づくりを呼び掛けると、多くの市民が応じ、大高正人設計「県立歴史博物館」が完成、タウト関係の一連の資料を寄贈、日本博物館協会博物館功労賞、基金積立が3000万円となって財団認可、その後も毎年増加し、没する頃には一億円を大きく超えるに至る。さらに、**「高崎哲学堂」を建設し、それをモデルに全国に「哲学堂」が建設されることを提唱、****代表権を持ったまま、会長に退き、**高崎哲学堂設立の会月報「よろこばしき知識」に、生涯を六つに区分した自伝を寄稿するなどしたが、この間、日本文化デザイン賞、SGI平和文化賞、国井喜太郎産業工芸賞などを受賞、92歳の誕生日には、県立近代美術館に胸像が設置された。

バブル崩壊・1992＝94歳：

55年体制終・1993＝95歳：

高崎経済大「群馬にみる人

群馬テレビで「群馬地域文化の先覚者」として足跡が放映されてまもなく、**\*「哲学堂」建設をなお望みながら、没した。没後、群馬県文化功績者特別表彰・高崎市功労者賞。**自然・思想、高崎新聞記事や三沢浩「アントニン・レーモンドの建築」で補足、